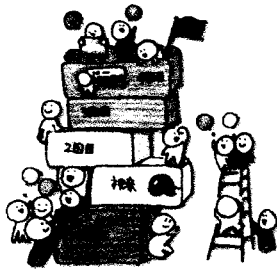


牧之原市公共施設マネジメント 報告会

～自治基本条例推進会議の活動報告と
答申素案についての意見交換会～

☆



日時：平成29年4月28日
会場：牧之原市民センター

【本日の次第】

- ・開会
- ・主催者挨拶
- ・委員の紹介
- ・内容
 - ①答申の視点と基本的考え方について
 - ②施設分類のあり方・方向性等について
 - ③答申までのスケジュール等について
- ・意見交換
- ・閉会

牧之原市自治基本条例推進会議

1

求められる 公共施設マネジメント

牧之原市自治基本条例推進会議
(法政大学大学院政策創造研究科教授)
会長 坂本 光司

1. はじめに

2. 求められる行財政改革の視点

- (1) 市民意識の改革
- (2) 企業や団体の意識の改革
- (3) 議員の意識改革
- (4) 公務員の意識改革
- (5) 行政サービスの改革
- (6) 公共施設の改革(ハードとソフト)
- (7) 行政組織体制の改革

3. 求められる公共施設マネジメントの改革

- (1) 少子高齢社会への対応
- (2) 安全・安心社会への対応
- (3) 協働推進社会への対応
- (4) 民間サービス拡大社会への対応
- (5) 税収減社会への対応
- (6) 生活の広域化社会への対応
- (7) 地域間競争激化社会への対応
- (8) 公共施設の維持管理費の飛躍的増大

4. 公共施設マネジメント改革の視点①

- (1) 超長期的視点での対応
 - ① 私たちのためではなく子供や孫たちのため
 - ② 今日の問題解決のためではなく未来の問題解決のため
 - ③ 自分の住む地域のためではなく市全体のため
 - ④ いつまでも2つの町ではない

4. 公共施設マネジメント改革の視点②

(2) 公共施設の最適化

① 運営(運営・仕組み等)の最適化

② 質の最適化

③ 量の最適化

4. 公共施設マネジメント改革の視点③

(3) 民間施設やサービスの高度利活用

(4) 周辺市町の公共施設やサービスの高度利活用

(5) 庁舎間の移動コストの縮減と行政サービスの円滑化

(6) より効果的な教育サービス

5. 改革には痛みが伴う

関連データ

1 人口の将来展望

	1994年	2000年	2005年	2010年
総人口	49,019人	44,000人	...	32,470人
年少人口(0~14歳)	6,508人	5,375人	...	4,567人
生産年齢人口(15~64歳)	30,383人	24,605人	...	17,347人
老年人口(65歳以上)	12,128人	14,020人	...	10,556人

出典: 牧之原市人口ビジョン

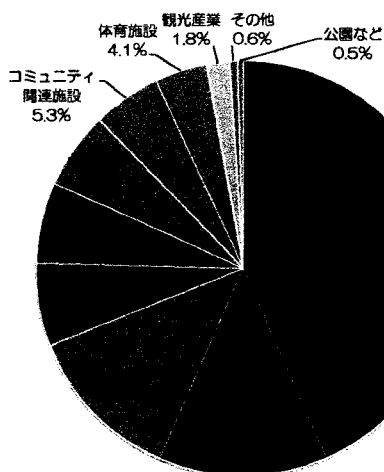
2 牧之原市財政(民生費)の推移

	1994年	1999年
民生費	2,148,097千円	5,474,797千円
(内、扶助費)	675,624千円	2,382,293千円

※1994年は、相良町、榛原町の決算額の合計



牧之原市の公共施設の状況



【市が保有する公共施設】

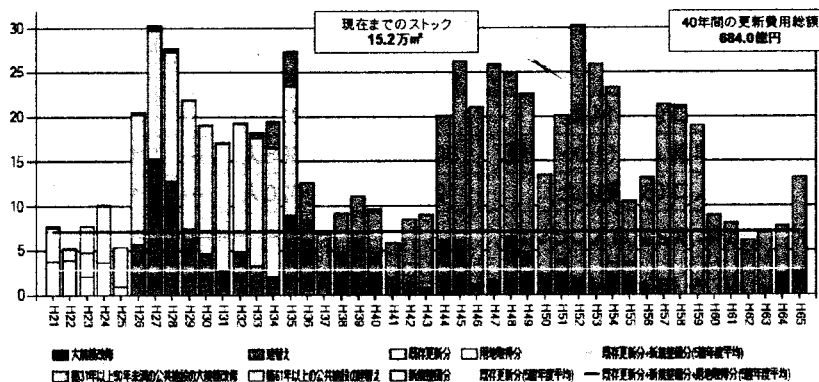
- ・154施設 (389棟)
- ・152,000㎡

その多くが、昭和40年代後半から60年代に建築

今後、一斉に改修、建替えの時期を迎える



牧之原市の公共施設の状況



算定年数	直近5年間	今後40年間平均	比較
公共施設に係る経費	6.6億円	17.1億円	2.6倍



公共施設マネジメント 報告会

対話の場の開催とまとめ



牧之原市自治基本条例推進会議

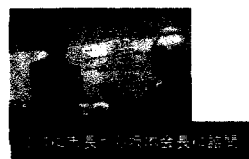


対話による協働の公共施設マネジメント

自治基本条例推進
会議への諮問

施設分類別の方向性、先導的な施設を答申
するため、多様な意見を確認

学園地区
まちづくり協議会
公募市民 等



対話の場の開催

町議



報告会の開催

5回の対話の場の開催

町議会に2回、市民に2回
若手職員まで参加






庁内組織による
検討

現状の確認、たたき台の検討





第2次総合計画 重点プロジェクト (まち・ひと・しごと総合戦略)

<p>重点1 “宝”こども育成プロジェクト</p>  <p>子どもを産み育てやすい環境をつくる</p>	<p>重点2 “輝く”高台開発プロジェクト</p>  <p>定住したいと思える魅力ある住環境をつくる</p>
<p>重点3 “魅力ある”産業雇用プロジェクト</p>  <p>地域産業の魅力を高め、若者が働きたいと思える就業環境をつくる</p>	<p>重点4 “活き活きと”健康で活躍プロジェクト</p>  <p>みんなが生きがいや活躍の場をもち活き活きと暮らせる地域をつくる</p>
<p>重点5 公共施設“最適化”プロジェクト</p>  <p>持続可能で最適な公共施設サービスを提供し、市民満足度を高める</p>	<p>4年間で特に力を入れる 5つの重点プロジェクト</p>

15



対話の場の参加者

<p>行政・文化施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会 ・商工会 ・建築事業者 ・小学校の先生 ・子育てサークル ・読書ボランティア ・労働団体 等 <p>施設管理を担当する職員</p> <p>施設担当がSHIENしてほしい職員</p>	<p>学校・体育・子育て施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育組合 ・PTA ・体育協会 ・民間スポーツクラブ ・幼稚園の先生 ・民間幼稚園 ・公立幼稚園 等 <p>施設管理を担当する職員</p> <p>施設担当がSHIENしてほしい職員</p>	<p>コミュニティ・公園施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館 ・消防団 ・子育てサークル ・遊具の事業者 ・花の会 ・地区のまちづくり活動参加者 等 <p>施設管理を担当する職員</p> <p>施設担当がSHIENしてほしい職員</p>	<p>保健福祉・観光産業施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設利用者 ・社会福祉法人 ・シルバー人材センター ・観光協会 ・サーショップ協会 ・地域おこし協力隊 ・金融機関 等 <p>施設管理を担当する職員</p> <p>施設担当がSHIENしてほしい職員</p>	
<p>市民メンバー 38名</p>	+	<p>職員メンバー 38名</p>	=	<p>合計76名</p>

16



対話の場の流れ

第1回

日時: 9月9日(水)
会場: 棟原文化センター

- ・公共施設の楽しい思い出
現状や基本的考えを
聞いて感じたこと

第2回

日時: 10月8日(水)
会場: 棟原総合病院

- ・施設分類別のありたい姿
・分類別の現状を聞いて、
感じたこと(ギャップなど)

現地視察

日時: 9月29日(火)
会場: 庁舎、小学校 等

- ・賢く使う際にポイントに
なりそうな施設を視察

第3回

日時: 10月23日(金)
会場: 相良総合センター

- ・大切にしている視点まとめ
・分類別のありたい姿を
定める。(投票)

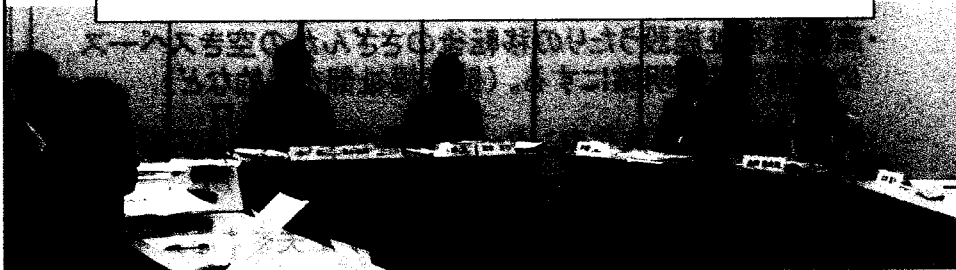


17



公共施設マネジメント 報告会

施設分類別のあり方・方向性等について

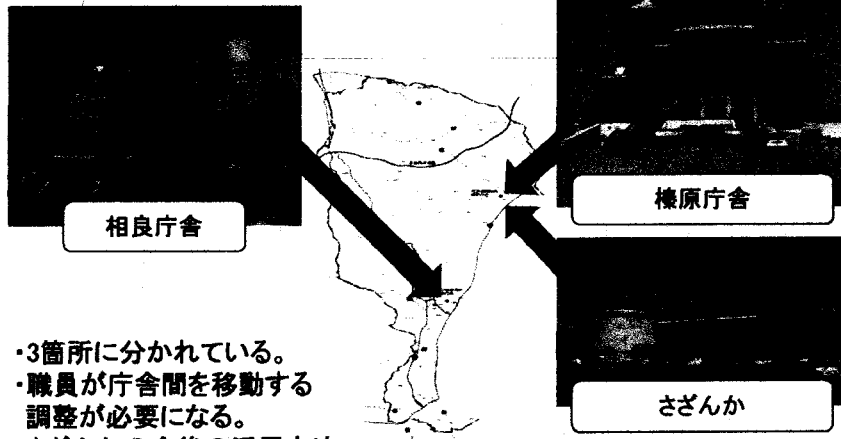


牧之原市自治基本条例推進会議

18



市役所庁舎について



- ・3箇所に分かれている。
- ・職員が庁舎間を移動する調整が必要になる。
- ・さざんかの今後の活用方法
- ・榎原庁舎6階の活用方法

19



市役所庁舎について

- ・将来は高台という対話の場の意見を尊重しつつ、当面は庁舎機能の部分的な統合を視野に、今ある施設を賢く使うことを考える。
- ・図書館、史料館などの機能と併せて考える。
- ・高齢者福祉施設等たりの移転後のさざんかの空きスペースの活用方法を明確にする。(健康福祉部を集約など)
- ・榎原庁舎、榎原文化センター会館棟の空きスペースの活用方法を検討する。
- ・行政の仕事の効率化など面積を減らす工夫をする。
- ・市民への直接的なサービスを維持(オンライン、民間と連携)

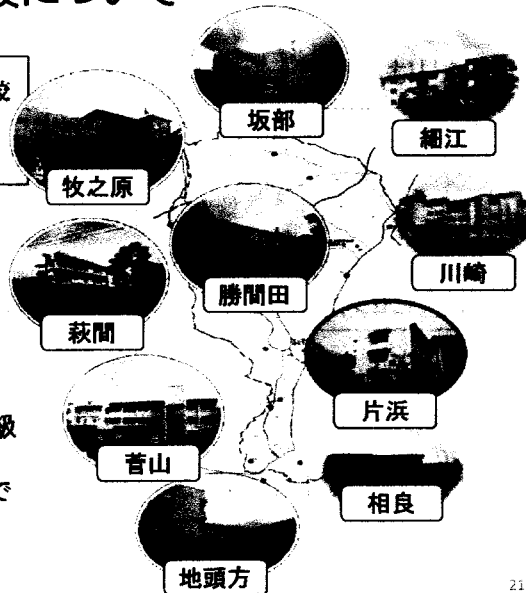
20



学校施設について

赤枠: 複式学級のある小学校
 白枠: 単学級のある小学校
 枠無: 複数学級の小学校

- ・児童数が減少し、余裕教室等が増えることが予想される。
- ・片浜小学校は複式で学級が編成されている。
- ・プールの老朽化が進んでいる。



21



学校施設について

- ・15年後の方向性は、対話の場のおりとする。
 (魅力ある教育環境の実現、小中連携教育、中学校単位で小学校をまとめる。)
- ・複式学級はつからない。市の統合の基準を設ける。
- ・生涯学習の拠点として、地域と複合的に利用する仕組みについて、地域が主体となって考える対話の場を設ける。
 (小学校施設)
- ・プールは、民間施設や社会体育施設を活用する。



22



生涯学習の拠点について

はりはら塾



榎原文化センター

遠州相良田沼塾

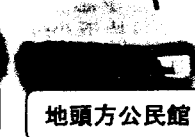


相良公民館

- ・拠点が別々、活動も別々
- ・生涯学習活動と公民館活動の違い。
- ・老朽化などの施設の問題



萩間公民館



地頭方公民館

23



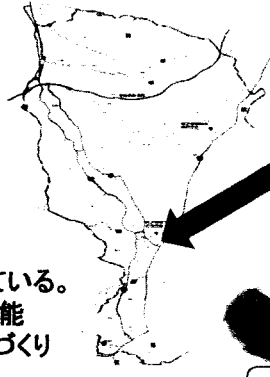
生涯学習の拠点について

- ・団体を一つにして、市民が主体的に運営する。
- ・拠点(本スクール)を一つにする。
- ・小学校施設を学校教育と生涯学習の拠点とする。
- ・市の中心部にある空き施設、スペースを拠点として検討する。
- ・コミュニティセンターや公民館をまちづくりセンター(仮称)として活用する。

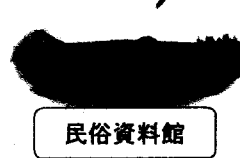
24



文化財の収集、保存、展示について



史料館



民俗資料館



埋蔵文化財
調査事務所

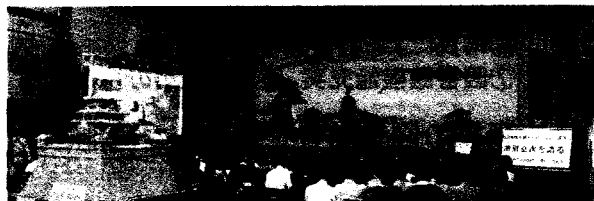
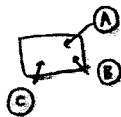
- ・3箇所に分かれている。
- ・史料館の空調機能
- ・田沼意次のまちづくりへの活用

25



文化財の収集、保存、展示について

- ・現状ある3施設(史料館、民俗資料館、文化財調査事務所)を1つに統合する。
- ・施設機能は、田沼意次の出身である旧相良城下に、史料保管(空調など)も考慮して検討する。
- ・検討に当たっては、保管・保全だけでなく、情報発信などまちづくりへの活用が可能なプラスの機能を盛り込んだものとする。

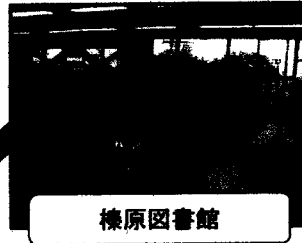




図書館について



移動図書館



榛原図書館



相良図書館

- ・2箇所+移動図書館
- ・単なる閲覧場所ではなく、交流、学習機能が必要
- ・担い手の育成、利用者や民間の知恵を活かす。

27



図書館について

- ・交流、学習スペースを確保する。
- ・司書やボランティアの育成を進めながら、利用しやすい施設にする。
- ・平成21年3月の図書館のあり方検討会の提言を尊重する。
 - ①独立した専門機関の図書館と専任職員の配置
 - ②学習・交流ができて、市民が自然に集う安らぎの図書館
 - ③移動図書館ひまわり号とサテライト図書館構築による市内各地の利便性向上
 - ④図書館と幼稚園・保育園・学校の連携
 - ⑤読書活動ボランティアの支援
 - ⑥市民による図書館サポート活動
 - ⑦図書館機能充実 実現のための協働推進 今後の展開
- ・高校の図書館もネットワーク機能として位置付ける

28



公共施設マネジメント 報告会

意見交換



牧之原市自治基本条例推進会議

29

牧之原市公共施設マネジメント報告会 議事録

日時：平成28年2月28日

会場：坂部区民センター

1、 開会

2、 主催者挨拶

坂本会長：

- ・長らく行財政改革をおこなってきたが、公共施設そのものにもメスを入れなければ将来、危険なことになってしまう状況。どのようにハードを再編するか？新たなソフトを組み込むか？運営をどうするか？公共施設そのものや運営のしかた、機能そのものについて根本的、根底的に議論してほしいと市長から諮問を受け、今まで全9回の議論を重ねてきた。
- ・今までは常に新しい施設を次から次につくってきた。今回の場合は右肩下がり斜面の中でどう公共施設を考えるかということ。痛みを伴う。現場に行って可能な限り意見を聴くために推進会議が主催となり全5回+現地視察1回の対話の場を開催した。そこで出た意見は推進会議に資料としてもらい、推進会議の中でも議論をした。
- ・市長から諮問を受けた期限が3月末。推進会議の中で方向性を出すことが一般的だが、意見を出すことが出来なかった市民の声にもっと真摯に耳を傾けるべきと考え、報告会という形で今日、開催した。3月末に出そうとしている答申の基本的な内容について、まだ中間段階ではあるが報告したい。意見を出してもらえれば。残り1ヶ月で答申の中に可能な限り組み込んでいきたい。
- ・今日の報告会でなくても、意見があればいつでも委員に直接言ってもらいたい。すべての意見に真摯に向き合っていきたい。

3、 委員の紹介

4、 内容

① 答申の視点と基本的考え方について

坂本会長：

- ・公共施設の改革については、今までずっと後回しにされてきたのが全国的な傾向。真実の意識改革なくして行財政改革は難しい。行革の最大の使命は市民の意識改革である。右肩下がり現状の中で「あれもこれも、俺も私も」では限られた血税を有効に使うことが出来ない。
- ・今まで私たちは行政施策に関しての見直しについては随分やってきたが、今回市長から諮問されたテーマが「公共施設の改革」。ある意味で本丸であり、一番血が出る、痛みを伴う部分。新しい施設をどんどんつくると言うより、集約したり、場合によってはスクラップせざるを得ない。機能そのものは高機能化させる。今日はそんな視点で説明していきたい。
- ・なぜ公共施設の改革が必要なのか？(1)にある少子高齢化。具体的には、人口はどんどん

減っていく一方で高齢者が増えていくということ。これが厄介な問題。それに対応するような公共施設でなければならない。

- ・ (2) の安心・安全についても同じで、震災や津波に絡まる問題。これまではあまり想定しなかった問題。被害を想定しながら公共施設のあり方も考えなければならない。
- ・ (5) の税収減社会について、15歳～65歳の税金をたくさん納めてくれる層が減少することで税収そのものが減っている。好況だから税収が増え、不況だから税収が減るというのは一時的な問題。国そのものも一千兆円の借金をつくってしまった。世界でも類似のない額。自分たちの生活は自分たちで守らなければ。公共施設に対してメスを入れざるを得ない。
- ・ (8) 公共施設の維持管理費の飛躍的増大について、現在牧之原市にある公共施設は、154施設。旧相良町・旧榛原町、それ以前から形成されてきたもの。全て今まで建ててきたものであり、当然老朽化してきている。修繕出来れば良いが、60年が経っていればスクラップが必要。人口が減っていく、高齢者が増えていく、税収が減っていく中で公共施設をそのまま置いたら、民生費・扶助費(生活保護世帯・高齢者・障がい者・母子家庭・生活困難者)が不足してしまう。箱ものよりも何より大切なのは人間の命と生活。そのためには、莫大にかかる公共施設の維持管理費を減らしていかなければならない。
- ・ 私たちが毎日使っている施設がある日突然なくなってしまうたり、機能が低下してしまうことは、それまで規則的に利益を得ていた人たちにとってはマイナスイメージだが、そんなことを言っていたら自分たちの子供や孫に借金を残すことになってしまう。超長期的な視点で考える必要がある。今日・明日のことではなく、10年後、20年後に向かってゆっくり着実に変化していく。ボクシングで言えば、カウンターパンチを一度くらえば、防御を強化して二度とくらわないと思う。怖いのはボディブローのような変化。繰り返すことによって全体が弱っていく。変化はゆっくり着実にやってくるということ。私たちではなく、子供や孫たちのためにやっていくという視点が重要。
- ・ 自分の住んでいる地域は愛着があり、良くしたいという思いがあるが、牧之原市は依然として二つの町が・・・という線引きがあるように思える。
- ・ 公共施設の最適化について、「量」は数や大きさの問題、「質」は機能やサービスの問題。運営については、一つの公共施設が何でもそこで、公共施設そのものだけで問題を解決しようとするのは難しい。民間との協働や周辺市町とうまく連携しながらやっていくことも一つの方法。
- ・ 公共施設改革には痛みが伴う。ハッピーな改革だけではない。
- ・ 2015年10月に行った国勢調査では初めて人口の右肩下がりが証明された。牧之原市の人口推計でも2020年、2060年と年少人口、生産年齢人口ともに右肩下がりとなっている。現実を直視して改革を行わなければならない。直視せずに改革をするのは雲を掴むような話。
- ・ 民生費(扶助費)については1994年と比較して2014年は3倍以上の桁違いの額となっている。これからさらに必要とされていく一方で税収は減り、負債はさらに増えていく。そういった視点で公共施設改革を考えていかなければならない。
- ・ 推進会議委員は推進会議での議論だけでなく、対話の場には極力参加してきた。対話の

場での意見については極力答申に盛り込んでいこうと考えている。

質疑応答

- ・今、牧之原市内にある公共施設を考えると、改革マネジメントをやらなければならない最大のポイントは、少子高齢化を伴う人口減少社会の明らかな現出。
- ・牧之原市の公共施設白書が昨年、刊行された。一市民として内容を見て愕然とした。今までも恐怖感を覚える世界だとは感じていたが、現実化してきているという新たなフェイスに入っている。
- ・牧之原市の公共施設は全部で 154 施設、152,000 m²。機能別に見ると、学校教育・行政施設関連で全体の 60%を占めている。大きな問題を解決するのは重点管理だが、それだけではなくいろいろな分野に公共施設がまたがっている。そういう分野も見過ごすわけにはいかない。
- ・市内公共施設の 6 割以上が建築から 30 年以上が経過している。このままで良いのか？勇気を持って、そこに手を付けていかなければ。
- ・公共施設と言っても、人間と全く同じ。歳をとれば、いろんなところにガタがくる。人間なら病院に入院して先生に診てもらい、退院してリカバーが出来る。公共施設も基本的な対応は同じだが、今のままの施設をもち続けることが出来るはずがないし、体力があるはずがないことが経済的な理由からも言える。
- ・時間軸に重ねると、これから 10 年間は修繕ラッシュ、次の 10 年間は建設ラッシュの時代。それにこれからの人口減少を重ねるとどうなるか？市民一人ひとりに考えてもらいたい。市民一人ひとりに平等にかぶってくる問題であるという認識を今一度確認してもらいたい。
- ・過去 5 年間で、公共施設メンテナンスだけで年間平均 6.6 億がかかっている。市内 154 の公共施設の今後 40 年間を見通した場合、年間平均 17 億が必要。維持・メンテナンスをするだけで莫大な額を市民が負担していくことになる。もっと大事なものは他にもある。道路・橋梁・病院など、市民の安心・安全を確保するという使命を公共行政は持っている。そういうところにまわすお金がなくなってしまう。厳しい現実を認識してもらいたい。
- ・市民から公共施設に対する率直な意見を聞こうとつくったのが対話の場。公共施設マネジメントは、20 年先を見越して私たちはどう手を打ったら良いか、どういう方向性を考えていけば良いかがポイント。対話の場メンバーについては 20 年先を現実的な感覚で考えることが出来る世代という視点から 30 代～40 代の若い人たちを中心としたメンバー構成を事務局にお願いした。
- ・今日の報告会で結論を出すわけではなく、残り一ヶ月推進会議としても踏ん張り、意思固めをして、3 月の答申に提出したい。
- ・新しいまちづくりを進めるために第二次総合計画が今年度スタートした。全市民をあげての活動。5 つの重点プロジェクトがある。5 つの重点プロジェクトは相互に密接に絡む問題であり、どれ一つ単独で管理するプロジェクトではない。公共施設“最適化”プロジェクトの方向性や考え方、手の付け方が他の 4 つのプロジェクトと絡んでくる。さら

に場所・建物・施設の問題も絡んでくる。推進会議では総合計画の中で一つの重要な側面を持ち、公共施設について考える責任がある。

- ・対話の場の参加者は76名。(市民メンバー+職員メンバー)施設を大きく4つの分類し、それぞれ2グループずつをつくりワークをおこなった。昨年9月から12月までに現地視察を含む5回を開催した。
- ・このプロジェクトの時間的なスパンは20年。4年ごと5回のPDCAサイクルをまわしていくことにより、20年後の方向性を確かにしていくことが狙い。

○対話の場における大切にする視点(基本理念)

- ・基本理念の重要性について。このプロジェクトの20年をかけて取り組んでいく。21年目にはまた新たな20年計画がうまれるかもしれない。20年あればいろいろな社会的変動が当然起こり得る。その都度考えながら右に行ったり左に行ったりしては、最終的な効果は出にくい。そういった意味でまず基本理念を確立してもらうため、対話の場の参加者の皆さんにはワークをしてもらい、5つの視点を大事にするという基本理念が出来上がった。
- ・視点4と5について。牧之原市らしい。今まで4、5つの県外の地方都市で生活していたが、市民の力でやろう、みんなでやろう、まちづくりを考えようということが市民から出てくるまちは自分が知る限り今まで一つもなかった。これは牧之原市の財産だと思う。
- ・こういった対話の場を設計し、進行してもらった三菱UFJの方、市民ファシリ、グラフィックチャートを描いてくれている方たちのサポートもあり、4ヶ月でここまで進むことが出来た。
- ・基本理念の5つの視点については前回の推進会議でも話をしたが、何も足すことはない。
- ・20年間の計画にブレを生じさせないための基本理念を当事者だけではなく、市民にも認識してもらうことが重要。

○対話の場における大切にする視点(基本理念)

- ・対話の場における施設分類別の方向性について、推進会議として同意した。
- ・行政施設については、対話の場の参加者ほぼ全員が集約化が必要という意見だった。現実的なまとめ方としては、今あるものを賢く有効に使うという視点で。
- ・文化施設については単体の機能だけの追求ではなく、付帯させる機能も重要。学校など大型の公共施設が空く状況も考えられる。いろんな公共施設の動きの中で機能の付加も考慮していく必要がある。
- ・文化施設について、休眠状態になっている施設もある。いつまでも放っておかず、取り壊さなければ。そのかわりに新しい価値のあるものをつくっていく。そこについては最低限の答申が必要になってくるのでは？
- ・学校施設については、20年前と比較すると児童数が半減している状況。向こう20年後でほとんどの学校が単学級になる。子供たちの学びを考えると統合は避けて通れないのでは？

- ・プールの問題。夏場2ヶ月だけのためにかなりの労力・維持費がかかっている。民間施設の利用も視野に入れてみては？新しいプールをつくることは難しい状況。みんなが知恵を出す場だと思う。
- ・子育て施設については、民間の力が一番発揮しやすい領域。0～2歳児については認定こども園をつくり、幼稚園・保育園についても指定管理者制度から民営化というトレンドを確認しておく必要があると思う。
- ・コミュニティ施設について、老朽化も問題となっている。現在、小学校区10区を基本としているが、コミュニティ活動の中心的な施設という性格は変えず、学校施設との供用など、賢く有効に使うという発想もこれから大事になってくると思う。セキュリティの問題もあるが。
- ・保健福祉・観光産業施設についても、民間の力を大いに引き出して進めていくべき。高齢者が増え、需要は限りない。今ある施設を活用しながら民営化、民間の力を発揮してもらい、お互いWIN WINの関係をつくっていく。行政も民間の力を育て、民間も行政の需要に応じていく。思い切ったブレイクスルーも必要。

○対話の場における先導的な施設(プロジェクト)

- ・20年先だからまだ大丈夫・・・と思わないでほしい。時間は流れている。少なくとも今年度に掲げておくべきテーマ、28年度には着手する施設テーマは明確にしておく必要がある。(庁舎施設の活用、学校施設の活用)良いイメージを持ってほしい。
- ・右から左に動かせば右が空く。空いたものに対してどう手当てをしていくか。これが第二次総合計画の他の4つの重点プロジェクトと密接に絡んでくる。空っぽにするのではなく、空っぽになる前以上の賑わいを創出するという視点を落としてはならない。

② 施設分類別のあり方・方向性等について

《市役所庁舎について》

櫻井委員：

- ・庁舎問題については会長からも話があったように本丸のようなもの。庁舎問題にある程度の目途がつかないと、他の公共施設マネジメントもうまくいかないということが委員全体の認識。結果を誤ると市民に多大な迷惑をかけることも考えられる。昨年11月の新聞であたかも決定したかのような報道をされ、委員としても驚いた。問題の重要性を再認識した。
- ・推進会議としては、判断材料として市民目線から出た対話の場の多くの意見を最大限尊重することを決めた。いろいろなデータ(公共施設白書・財政状況・人口推計)の確認もした。
- ・対話の場としては、庁舎は一つにして空いたスペースを賢く使う、市民サービスの低下がないように配慮すべきという意見が出された。それを念頭に置きながら推進会議委員で議論した。
- ・将来的には高台という対話の場の意見を尊重しつつ、当面は庁舎の部分的統合を視野に今ある施設を賢く使うことを考える。・・・高台は津波を考慮してのこと。今ある両庁舎が

いずれ建て替え時期を迎えるのを見計らって新しい庁舎のことを考える。今すぐ高台に移ることが出来れば良いが、財政面などを考えると難しい。今ある施設を賢く使うことを考えるべきだと考えた。

- ・空いているスペース・これから空くスペースを有効に使っていくことが賢く使うことにつながるのではないかと考えた。
- ・統合することにより、市民が頻繁に使う部門についてはサービスが低下しないようにオンライン化やコンビニを使った民間との連携も取り入れていく必要があると考えた。
- ・公共施設マネジメントの中で庁舎問題は避けられない問題。何らかの結論は出さなくては。先送りすることは許されない。
- ・答申が決定事項ではなく、市長がそれを認め、議会に上程し、議会の皆さんに判断してもらって初めてスタート。

《学校施設について》

大石委員：

- ・市が現在、保有している公共建築物 154 施設・延床面積 152,000 m²の中で、学校施設は 65,911 m²、市内公共建築物の延床面積の 43.4%を占めている。
- ・学校施設のことを考えずして公共施設マネジメントをおこなった、考えたとは言えないのではないか。まさに中心課題。
- ・牧之原市における少子化の進行も顕著。小学校児童数は 20 年で減少率 45.3%。今後もこの傾向は続くと予測されている。
- ・学校教育施設を未来志向で賢く使っていくことが重要な課題。
- ・それぞれの小学校にはそれぞれの歴史があり、地域のシンボリックな存在となっている。施設活用について、地域で共感しながら一緒に考えていくこと、まちづくりの視点で施設を見ていくことが重要である。
- ・市内には 10 の小学校、3 つの中学校がある。(※御前崎市長管理の御前崎中学校もある。)
今後、さらに児童数が減少し、余裕教室等が増えることが予想される。どこの小学校もプールの老朽化が問題となっている。現在のように維持管理することは不効率。
- ・推進会議としては、15 年後の方向性については対話の場での意見を尊重する
- ・複式学級はつぐらない。市としての統合の規準を設けることが必要ではないか。
- ・今後、学校が地域に開かれた存在になることが求められている。地域の人たちの生涯学習の拠点として活用すべき。そのためには、地域が主体となって考えるような対話の場が必要。その中で地域と複合的に利用する仕組みを考える必要がある。
- ・プールの老朽化と利用効率が悪いことについて対策を考えるべき。今後、民間施設や社会体育施設を活用することを視野に検討を進めていきたい。

《生涯学習の拠点について》

永田委員：

- ・現在、市内では榛原地区にはりはら塾、相良地区に遠州相良田沼塾があり、それぞれ生涯学習活動をおこなっているが、ほぼ同じような講座が開かれている。合計で年間 2,500

人の市民が参加し、活動的に生涯学習活動がおこなわれている。

- ・ 榛原文化センター、相良公民館に拠点とする施設があり、活動も別々なため、一つにしていくための検討をしていきたい。それぞれの施設で耐震性が不足しているところもあり、老朽化が進んでいる。
- ・ 相良地区は相良公民館、萩間公民館、地頭方公民館の3つの拠点があるが、榛原は1つしかないため、地区活動にも影響が出ている。
- ・ 同一の建物を拠点とすることで団体も事務局も1つにしていきたい。
- ・ 拠点を1つにしても、お年寄りなど移動出来ない方などを考慮して出前講座・移動スクールを検討していきたい。
- ・ 小学校施設(案としては片浜小学校)を生涯学習の場として活用していきたい。
推進会議での検討事項5つ・・・
- ・ 団体を一つにして市民が主体的に運営できるようにしていきたい。
- ・ 拠点を一つにする。
- ・ 小学校施設を学校教育と生涯学習の拠点としたい。
- ・ 市の中心部にある空き施設やスペースを拠点として検討していきたい。
- ・ コミュニティセンターや公民館をまちづくりセンターとして活用していきたい。
- ・ こういった施設を中心として市民の生涯学習活動の一体感をつくりあげていきたい。

《文化財の収集・保存・展示について》

佐藤委員：

- ・ 現在、牧之原市には3つの文化財施設がある。(史料館・民俗資料館・埋蔵文化財調査事務所)
- ・ 公共施設マネジメントの先導的施設である市役所庁舎に付随して、文化財施設もあわせて考えていく必要がある。
- ・ 空調・温度管理施設が不足による施設内の史料の劣化、今後の保管が問題となっている。史料劣化のため、他市町村との文化財の貸し借りも出来ない。全国的にも知名度の高い田沼意次をいかしたまちづくりをしていきたいが、なかなか思うように進まない。
推進会議での検討事項3つ・・・
- ・ 3つの施設を1つに統合する
- ・ 資料の保管・保存、全国的に情報発信をすることを踏まえたまちづくり機能をプラスしていく。
- ・ 史料館機能については田沼意次出身の相良城下におくべき。

《図書館について》

山本委員：

- ・ 牧之原市の図書館機能は榛原図書館・相良図書館の2つの拠点と移動図書館ひまわり号で運営されている。市の図書館としては蔵書・面積共に県下最下位の状況。
- ・ 単なる閲覧場所だけでなく、子育ての中での母親同士の交流や高齢者の勉強、市民活動の拠点となる付帯機能を持った市民の集まる場にしていきたいというの

が対話の場としての考え。

- ・知恵や工夫、アイデアをいかし空きスペースの確保とあわせて考える。庁舎の空きスペースに図書館とコミュニティ集会機能を盛り込むなどの機能化という意見も出た。

推進会議としての方向性・・

- ・交流、学習スペースを確保する
- ・司書やボランティアの育成を進めながら、利用しやすい施設にする。
- ・平成 21 年 3 月の図書館のあり方検討会の提言を尊重
- ・高校の図書館もネットワーク機能として位置付ける。

③ 答申までのスケジュール等について

- ・今回の意見交換で出された意見を参考にして 3 月中に答申案をまとめる。市長への答申は 3 月 30 日を予定している。

5、 意見交換

社協 水野さん：

- ・自分の住んでいる地域に市営住宅がある。今回のこの公共施設の中に市営住宅というのは謳われていないが、どこに入るのか？牧之原市内のいろんなところに市営住宅があると思うが、かなり老朽化が進んでいる。入居もかなり少ないようだ。入居している人の多くは生活弱者という状況。公共施設としての市営住宅の今後の方向としてはどのように進めていくのか？建て替えは困難だと思うが・・どこかに集約するのか？空家利用なども考えているのか？
- ・うたりについて・・社協でも移転について検討を重ねている。民間福祉施設との競合の中で、今後経営的に大丈夫かという心配もある。皆さんにいろんな意見をいただきながら今後も進めていきたい。

副会長：

- ・市営住宅については今回の審議内容の中には入っていないが、次回の会議で審議の一つとして扱うことが出来れば。
- ・うたりの移転について・・主に会議で議論したのは、うたりが移転した後の空きスペースをどう活用するかについてだった。移転そのものの議論はしていない。次回の会議で検討したい。

商工会 本杉会長：

- ・今日の報告は、今までの現状を把握して目指す姿をつくってくれたものだと思う。全部実施してほしい。実施することは今の何十倍も大変。一番は行政がまだまだ右肩下がりに対応していない。全てのことで国が決めたことを右から左へ県から市へ・・とやっている。行政はエラーをしないことばかりを考えてやっているが、ホームランを打ってほ

しい。行政職員が給与を2割カットして子育てのほうにまわしているところがあるとテレビでやっていた。それが右肩下がりの対応。そういったことをしていかないと出来ないと思う。これからが正念場。

- ・庁舎の統合も推進会議でもう少し数字を出してくれたらありがたいと思った。窓口の職員が榛原・相良に3人ずついる。住民票をもらいに行ってもほとんど待つことはない。統合しても3人で良いのでは？窓口職員は業務委託していて、1人につき年間250万～300万を払っているはず。3人で800万～900万。推進会議でどこまで調べることが出来るのか分からないが、6人の窓口を3人にすることで年間1億ぐらいは削減出来るのでは？10年経てば10億。出来ればもっと数字を出してもらいたい。実施していくのはこれから大変だと思うが、それに向かってお願いしたい。

副会長：

- ・今後の議論に活かしていきたいと思う。

森田秋間区長：

- ・冒頭の坂本先生の話を知ると、自分たちの切な願いが実はわがままで悪者のような形になってしまいそうでこの場では言い出せないような雰囲気・・・
- ・庁舎統合の新聞報道について・・・一つにしなければいけないとは誰もが思っていると思う。どちらのほうか利用率があるのか？そのへんの数字はどのようにとらえているのか？そういう視点も必要なのでは。
- ・学校関係・・・今、小中連携教育は確かに叫ばれているが、効率化をすることにこの問題を出すことは自分としては少し違和感がある。ここで議論をする問題ではないのでは？まちづくりは現行の小学校区でやり、小学校はまとめていくという発想も違うと思う。小学校区を中心にしての絆づくり事業により地域の絆もかなり深まっている。なかなか地域に入ることのない男性も、小学校を子どもたちを中心に進めていくと男性も地域の中に入っていける道筋が出来るのでは？そういう意味で小学校区はとても大切。複式学級については子どもたちの負担も考えるが、地域の中での子どもたちとのつながりをこれからの教育の大切な位置づけにすると、効率化することだけが本当に良いのか？地域と連携した教育が必要。小学校区での地域づくりの発想と小学校存続のつながりを考えると、ある程度の無理をしてでも子どもたちのために小学校を残すという方向性もあるのでは。

副会長：

- ・区長として日頃堅実に事業を進めていただいていると理解出来た。次回の会議で検討したいと思う。

大石坂部区長：

報9

- ・小学校の関係・・15年後に中学校単位で小学校をまとめるということで、国の教育指針が小中一貫校であるなら当然そういう方向性になっていくと思う。平成27年の小学校児童数が2400人。仮に二つに分けると1000人規模のマンモス小学校がどんなものか想像すると恐ろしい。それぞれの地区にはそれぞれの歴史がある。統合しても地域ごとの学習の場は大切だと思う。小さい地区には小さいところなりの意義もあるのでは。マンモス校にした場合は、スクールバスの関係や予算の関係で資金が必要になってくる。15年後と言い切っているが、少しハードではないか。

副会長：

- ・次回会議に活かしたいと思う。

阿部相良区長：

- ・庁舎問題について・・部分的統合でその中に榛原庁舎の6階、文化センター・・という話が出たが、空いているから部分的統合という話が出るということは、そちらに何らかの形で持って行ってしまうということなのかと自分は捉えた。そうだとすると相良がだんだん小さくなってしまふ。考え方を変えれば、議員さんが6階に行けば相良庁舎の4階は空く。効率は悪いかもしれないが、この問題については合併当初の基本があるため、十分考慮してもらいたい。
- ・図書館・・まとまり方が小さいように感じた。新しい庁舎の関係も絡んでくると思うが、お金はかかるかもしれないが、将来の子ども、青年、年寄りも本を読めるよう、土地探しから本当の図書館機能の充実を考えてほしい。子ども達に係る機能を持たせるような考え方も入れて欲しい。

副会長：

- ・庁舎の部分的統合については次回会議で検討していきたい。
- ・相良図書館・・見学に行ってきた。図書館にはいろいろな機能が必要と改めて感じた。図書館機能についても推進会議で議論出来れば。

6、 閉会